

(6) 看護管理者がおこなう研究支援と臨床看護職員の研究意欲の関連に関する研究
川崎医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健看護学専攻修士課程 ○西村 瑞穂
川崎医療福祉大学保健看護学部保健看護学科 波川 京子

【序論】

A 大学病院の看護研究は、輪番制で毎年行っている。倫理申請書類作成に多くの時間を費やしている。臨床看護師が研究に取り組むため、看護管理者に①指導者などの確保、②病棟スタッフとの連携、③物的資源などの支援が求められている。

【目的】

看護管理者がおこなう研究支援と、臨床看護職員の研究意欲の関連を明らかにする。

【方法】

1. 対象者：A 大学病院の臨床看護職員 838名
2. 調査期間：2019年12月5日～2020年5月
3. 調査方法：無記名自記式質問紙調査
4. 質問項目：
 - 1) 基本属性 ①性別 ②年齢 ③当院経験年数 ④通算経験年数 ⑤最終学歴 ⑥勤務形態
 - 2) 看護研究の経験の有無や、看護管理者から受けた研究支援の有無や内容等
5. 分析方法：質問紙の「同意します」の欄にチェックがあるものを分析対象とした。質問項目を単純集計し、項目間の関連を多変量データ解析 (Fisher の直接法) した。解析ソフトは IBM

SPSS Statistics Desktop 23.0 for Base and all Modules を使用した。

6. 倫理的配慮：川崎医療福祉大学、川崎医科大学及び同附属病院倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】

回収した427名 (回収率50.9%) のうち同意のあった416名 (有効回答率97.4%) を分析対象とした。看護研究経験者208名 (50%) であった。看護管理者がおこなう研究支援と臨床看護職員の研究意欲に関連したのは、看護師長・看護副師長の文献検索や文献検討の方法 ($p < 0.028$)、研究計画書の書き方 ($p < 0.019$)、データ収集方法 ($p < 0.045$)、学会発表の支援 ($p < 0.024$)、研修会・勉強会の開催 ($p < 0.045$)、看護研究委員のデータ収集方法 ($p < 0.040$)、データ分析方法 ($p < 0.040$)、看護部倫理委員の研究内容についての助言 ($p < 0.019$) であった。

【考察】

臨床看護職員の研究意欲は、研究段階で関連する看護管理者が異なっていた。看護管理者は、臨床看護職員への研究支援において、役割を遂行する必要があることが示唆された。